

「インクルーシブな学校運営」 通信 第22号

カリキュラム・マネージャー

フリースラッグで共同学習 両校体育科

9月3日（木）5，6時間目、中札内「交流の杜」体育館において、両校合同の授業が実施されました。中高養11名、更農16名の計27名（いずれも第1学年）が、オリジナルのスポーツ「フリースラッグ」で汗を流しました。（通信21号に計画を掲載）

3つの混成チームが編制され、総当たりで競技が行われました。ゲームを待っているチームは車座になって次の戦略を考えるなど、運動量もコミュニケーションも十分な授業になりました。

学校	生徒	スコア	自由記述
更農	1	80	すごく楽しかったです。改善点としてマーカーにつく人を1人にしてやってもいいと思います。
	2	80	あまり分からなかったけど仲間との交流が深まった。
	3	80	初めてこのゲームをしました。このゲームをして気付いたことは、敵に気付かれないように走るのが良いと思いました。
	4	0	難しかった。
	5	60	もっとたくさん競技をやりたい。
	6	60	楽しかった。
	7	80	もっとこういうこうりゅうを多くした方がいいと思った。
	8	80	次も交流の時間があったら次も行きたいと思った。
	9	80	セーフゾーンの中にはいれる事案を短くした方がいいと思った。
	10	80	最初は知らない人ばかりでふあんだっけど、やっていくうちに色々な人といっぱい話せました。
	11	100	とても楽しくて、またやりたいと思いました。
	12	-60	赤いやつをおさえるのは無くした方がいい。あおりの発言は気をつけた方がいい。
	13	80	高校に入ってこういう体験をすることがないと思ってましたが、他校の生徒の方たちと協力して楽しい時間をすごすことができてよかったです。
	14	40	つかれたけど楽しかったです。
	15	60	またやりたい。こうりゅうはためになる。
	16	60	今日の交流を通して思ったことは、たくさんの人と話せて良かったと思いました。
中高養	1	80	更別農業高校の皆と楽しく授業ができてよかった。
	2	100	作戦をたてるときたくさんのお話ができてよかった。もっと楽しくできるといいと思った。
	3	80	今日、更別農業高校と交流して改めて初対面の人との接し方について一つ成果を得ることができた。
	4	20	サッカーでまたやろうね。たのしかったです。
	5	80	もっと話し合う時間が欲しい。ちがうスポーツでもやりたい。
	6	100	他学校の人たちと授業ができたのでたのしかった。
	7	80	楽しかったです。
	8	60	みんなと話し合いながら楽しくやることができた。
	9	40	もうちょっと、作戦を考える時間がほしかったのと、もっと、あいてのことを分かってからやったらもっと楽しいと思う。
	10	20	疲れましたが、他校の方とこのようにスポーツができて楽しかったです。
	11	80	更別農業高校の他の生徒とできたらなと思った。

スコア平均（更農 60.0 中高養 67.3 全体 63.0）



挨拶



フリースラッグ



作戦会議

中高養生、更農で現場実習

● 2年生活福祉コース「草花」①

9月2日（水）5，6時間目、3名の中高養生（3年）が、「草花」の授業に参加してフラワーアレンジメントについて学びました。更農生が育てた花や先生が用意した道具を使って、真剣な表情で作品を制作していました。



● 3年農業経営コース「作物」

9月7日（月）1，2時間目、中高養3年のKさんが「作物」の授業に参加してじゃが芋の収穫作業に汗を流しました。先生から作業の手順について説明を聞いた後、不良品を選別しながらコンテナに集めていました。



● 2年生活福祉コース「草花」②

9月9日（水）5，6時間目、Kさんが再び「草花」の授業に参加しました。来年の育苗で使用する消毒した黒土を袋に小分けする作業で、他の生徒と協力して熱心に取り組んでいました。

前の週と同じメンバーでの作業であり、授業の冒頭から気軽に会話を楽しむ様子もありました。



現場実習における「交流及び共同学習」実施の背景について

1. 「受け入れ可能な授業等」による連携校からの情報提供

今回の授業は、年度初めに更農から情報提供された「受け入れ可能な授業等」一覧に掲載されており、早い時期から構想を練ることができました。

2. 自校での現場実習(前提実習)の課題

例年、3年生の現場実習は2学期の5週間にわたって計画されますが、生徒によっては学校で現場実習を行う場合があり、通常授業の気分がぬぐいきれないことが課題となっていました。

3. ねらいの設定と趣旨の事前説明

現場実習を「交流及び共同学習」として実施するねらいを、「人とのかわり方」や「環境への柔軟な対応」の2点に定め連携校に伝えるとともに、実施の意図を対象となる保護者に対しても事前に伝え理解を得ました。

4. 両校の柔軟な対応

更農から中高養に次週の時間割と「受け入れ可能な授業」が示され、これを受け、中高養では参加授業と生徒を速やかに決定し、更農に連絡することで実施授業を決定しています。